

を無視せる官選代表であった。しかし乍ら労働組合の抗議に押されて、政府は一千人以上の労働組合に一千人に對して一票の割合を以て代表を選出することになった。かくの如く政府は形式を整へたが、同時にブルジョア政府に都合よき代表を選ぶことが必要であつた。茲に鈴木文治及その一族郎黨と結託した、このために今まで労働代表は勿論、國際労働會議そのまで否認してゐた總同盟は、掌を及すが如く政府と結び之れと結託した。これ即ち労働總同盟の方向轉換であり分裂である。この不自然な行為が單純にして恩ひつめた青年を驅つて極左に走らしめ。。。事件のため今は牢獄に呻吟してゐるを見る時、彼等の無責任と孽顛を憎まざるを得ない。筆者このために我が國労働組合運動が如何に阻害されたか 我が労働者の組織率の甚だしく低率なるもまた之れに原因してゐるのである。

しかばば政府は、如何にして總同盟を庇護してゐるか 先づ第一に労働代表選出に當つて生ずるその數の算定である。他團体に對してはしばしば嚴重なる干渉をなすにも表を送りつゝあるのである。

第二には、代表選出は主要なる労働團體が會合協議の上、公正に選定するを至當とするが、總同盟之れに反対し政府之れを裏書きらるが如くである。

曾て國際労働協會の總會に於て高野岩三郎博士の提案として會合の上公正に選出すべきことを主張されたが、總同盟等之れに反対し 政府の手先とも見るべき某は 極力之れを葬るべく努力したことは明瞭である。

従つて本年一月十八日、總聯合本部に開かれたる日本労働組合同盟提唱の國際労働會議に關する協議會に彼等が意識的に欠席したのは言ふまでもない。かくの如き情勢なるが故に、總聯合は本年度労働代表選出権を放棄し左の如き聲明書を發表した